

# SHOW MEY シネマール

★★★

## 葡萄畑に帰ろう

2017年/ジョージア(グルジア)映画  
配給: クレストインターナショナル、ムヴィオラ/99分

2018(平成30)年11月21日鑑賞 ビジュアルアーツ試写室

### Data

監督: エルダル・シェンゲラヤ  
出演: /ニカ・タヴァゼ/ニネリ・  
チャンクヴェタゼ/ナタリ  
ア・ジュゲリ/ズカ・ダルジ  
ヤニア/ケティ・アサティア  
ニ/ナナ・シヨニア/ヴァ  
ノ・ゴギティゼ/メラブ・ゲ  
ゲチコリ/ヴィタリ・ハザラ  
ゼ/アーロン・チャールズ/  
トリスタン・サラリゼ

### ■ショートコメント■

◆ジョージアの国会で副議長まで務めた政治家で映画監督でもある、85歳の長老・エルダル・シェンゲラヤ監督のことを私は全く知らなかったが、『The Chair』という英語題の本作は彼の人生の集大成!それをユーモアに包み、寓話風に短く(99分)作ったところが本作のミソだ。

本作は、ジョージアの“国内避難民追出し省”の大臣ギオルギ(ニカ・タヴァゼ)が登場し、注文していたジャガー製の高級椅子(夢の椅子?)が到着したところから物語が始まるが、その冒頭からして寓話的。さて、この椅子が象徴するのは、一体ナニ・・・?

◆トランプ大統領の登場以降、米ソ、米中、米朝間の抗争と融和はめまぐるしいが、ジョージアという小国でも権力抗争は常にあるらしい。ギオルギがクビにされた後の新大臣バトゥ(ヴィタリ・ハザラゼ)はお人好しのようなのだが、ギオルギの補佐官だったダト(メラブ・ゲゲチコリ)はやり手で野心家らしい。本作にみる、そんなダトのやり口は・・・?

また、本作では妻に早く死に別れたギオルギが、避難民だった女性ドナラ(ケティ・アサティアニ)と恋に落ち結婚に至るラブストーリーも描かれるが、元々それに反対していた義理の姉のマグダ(ニネリ・チャンクヴェタゼ)やギオルギ家の使用人のレナ(ナナ・シヨニア)の動静がハラハラドキドキのストーリー(?)を形成していくので、それにも注目!

◆本作をなぜ『葡萄畑に帰ろう』という邦題にしたのかは、ギオルギが失脚した中盤以降に明らかになるが、母親が1人で守っていた葡萄畑はすばらしい。また、そこに住むかっつの同級生たちとの心の交流は不変らしい。もっとも、その邦題が適切か否かは別だ

が・・・。

したがって、ギオルギの引っ越しについてきた“チェア”も本来ここで幸せな役割を果たせる、かに思えたが・・・。

◆99分間の楽しいジョージア国の寓話を満喫できたのは幸せだった。しかし、大きな感動にまでは至らなかったため、私の採点は星3つ。

2018（平成30）年11月28日記